



ペケレベツ

【目 次】	
■年頭のご挨拶	1
・来るべき少子高齢化社会に向けて	院長 藤城貴教
■年男・年女 申年	2
・3階病棟 山本あゆみ	・2階病棟 八木大地
・検査技術課 安保史織	
■これまでの主な話題	3
・11月19日 おもてなしのこころ 第2回接遇研修	
・11月20日～22日 赤十字災害救護訓練を終えて	
・11月24日～30日 医療安全推進週間～医療安全文化の醸成を図るために～	
・12月7日 清水小学校エビペン講習会	
・12月10日 2015 Year-end party サホロリゾートで開催	
・12月18日 町民公開講座を開催しました	
・1月16日～17日 厳冬期災害演習2016に参加しました	
■各課紹介	6
・3階病棟	
■コーナー	
・通所リハビリテーション オープン！	
■人事消息	
・<兼任>よろしくお願いします	
・<退職> お疲れ様でした	
・<結婚> おめでとうございます	
■医師派遣等	
■話題・写真などを募集します	
■編集後記	

年頭のご挨拶

来るべき少子高齢化社会に向けて

院長 藤城 貴教



みなさん新年あけましておめでとうございます。

今年は暖冬で積雪もまばら、例年よりも過ごしやすい日々が続いておりましたが、久しぶりの寒波の到来で、冬将軍にはナポレオンですらお手上げといったところでしょうか。

昨年の十勝地方は農業生産高が初めて3000億円を超える大豊作でしたが、TPPが導入された後の先行きはいまだ不透明で、この主力産業の農業ですら“過渡期”にあると言われております。

医療の世界に目を向けてみると、今年も診療報酬改定が実施される予定で、消費税増税とあいまって病院経営は一層厳しく、荒海の中で巧みなかじ取りが必要とされます。

2014年の通常国会で可決された“医療介護総合確保推進法”に基づいて、2018年までに地域医療構想が策定される予定ですが、今はまさにその“過渡期”にあります。この過渡期を乗り切るため、西十勝三町の医療関係者のネットワーク作りを目指して昨年立ち上げた“三町医療ネットワーク”を発展的に展開し、地域の実情に則した地域包括ケアシステムが構築できることを願っております。

“われわれは過渡期にある。しかし何にむかっての過渡なのか？ それについては誰も少しもわからない。”

(シモーヌ・ヴェイユ, 1933年「抑圧と自由」より)

理 念

私たちは、赤十字の理想とする人道・博愛の精神にもとづいて、よりよい医療を提供し、皆様に信頼される病院をめざしています。

基本方針

1. 地域医療の推進と救急医療の充実に努めます。
2. 患者様の権利を守り、その意思を尊重した医療を行います。
3. 地域の皆様の健康増進と疾病予防に努めます。
4. 清潔、快適で、やすらぎのある環境づくりに努めます。
5. 常に研鑽を重ね、資質・技術の向上に努めます。



ペケレベツとは

※「ペケレベツ」とは、アイヌ語で「明るく清らかな川」を意味しており、このアイヌ語が清水町と名付けられた由来となっています。

**年****男****・****年****女****ゆ**

3階病棟
山本 あゆみ

今年は年女ということで より良い一年となるように努力したいと思います。
‘明るく 楽しく 元気よく’を、この申年の一年のモットーにします。長期療養している三階病棟の患者様に気持ちよく入院生活を過ごして欲しいと思うからです。私自身も勤務がスムーズに進むと思います。家庭でも忙しい毎日ですが心掛けて生活を続けたらこの一年で‘良妻賢母’として成長出来るでしょう。

重労働からの腰痛対策として、今年は運動して体を鍛えたいです。腰痛を治し、体を引き締め、そしてずっと憧れていたスキー検定に挑戦出来たら嬉しいです。

次の申年（60歳！信じられない・・・）を健康に迎えられるように一日一日を大切に生活していくかなくてはならないと、気持ちを新たにして実感しています。



2階病棟
八木 大地

私は昨年4月より清水赤十字病院の3階病棟に勤務している新人看護師の八木大地と申します。

早速ですが、私の今年の抱負としましては、『人から信頼される』この一言にしました。

入社してから早1年が経とうとしていますが、まだまだ覚えることがたくさんあります。昨年から夜勤も始まっていますがまだ不安が多く、先輩方の支えがなければ乗り越えられなかった場面も多くありました。4月からは後輩も入社し、先輩という立場になるので、今までよりもっと責任感や知識、技術が問われてくると思います。

人から信頼されるというのは容易ではありません。しかし、日々勉学に勤しみ、「これは八木君に任せても大丈夫」と言われる回数が増えるように自分自身が成長していくことで病院のスタッフから信頼され、その自信が患者さんへのより良い看護に繋がり、患者さんにも信頼されていくのだと思います。

毎日明るく笑顔、がむしゃらに頑張ります！



検査技術課
安保 史織

昨年、検査では心電計や分析機など様々な検査機器が新しくなりました。検査時間が短縮され、心電図もパソコンで見られるようになるなど少しづつですが進歩できた年になったと感じました。

今年の目標は機械進歩に負けないよう、検査の技術・知識の向上にむけ積極的に学会や講習会に参加する事です。

また、検査室といえば一般的にどのようなことをしているかあまり知られていない所だと思いますが、わかりやすい検査の説明ができるようになることで患者さんや病院スタッフとの距離が近い検査室にしていきたいです。

入社してもう少しで早2年。今年は申年。年女らしくジャングルをとびまわるサルのようにフットワークを軽くしてがんばりたいと思います。



11月

医療安全推進週間 ~医療安全文化の醸成を図るために~

医療安全管理 者 田本 由美

厚生労働省は平成13年から、毎年11月25日（いい医療に向かってGO）を含む1週間を「医療安全推進週間」と定め、「患者さんの安全を守るための医療関係者の共同行動」と「国民の理解と認識を深める」ことを目的として開催を推奨しています。

当院においては、"安全で安心な医療を提供するために"をテーマに平成23年から医療安全標語展示会等を行ってきました。

今年度は、11月24日（火）～30日（月）までの期間、インシデント報告数が常に上位を占める「転倒・転落対策」、平成27年10月スタートした「医療事故調査制度」に焦点をあて研修会を企画しました。

医療安全対策は、押しつけではなく、職員一人一人が現状の危機感を認識し、総意として取り組むことが重要です。地域の皆様が安心して医療を受けられるよう、チームとして一丸となって医療安全推進活動に取り組んでいきましょう。



12月

清水小学校エピペン講習会

12月7日（月）清水小学校において教職員及び学校関係者など36名が参加して「アナフィラキシーショックによるエピペンの使用」について藤城院長が講演を行いました。

アナフィラキシーショックの原因は「食べ物・薬・運動」の他、日常生活の様々な場において発生する可能性があり、児童生徒の有病者数は全国で約2万人とされています。

文科省は、アナフィラキシーショックで危険な児童生徒に対しては、教職員が自己注射薬を打っても医師法に触れないとして、適切な対応を取るよう求める通知を全国の学校に出していることもあり、参加者は皆熱心に聴講していました。

また、実際にショックを起した場合のロールプレイも実施したほか、多数の質疑も発出され充実した講演会となりました。



12月

2015 Year-end party サホロリゾートで開催

12年10日（木）約50名が参加して河野親会会長、藤城院長の病院のこれから展望などの挨拶のあと、佐藤看護部長の乾杯で忘年会がstartし、新人memberの練に練ったPerformanceが繰り広げられました。

Top 新人 MEN'S DANCING (病院長賞)

3F Ns八木君、2F Ns後藤君、SW石井君 3人の息の合った？
Nude?Danceでした！

Second 新人 WOMAN'S MIX DANCING(看護部長賞)

3F Ns三谷さん、助手 安藤さん、2F Ns佐々木さん、PT堀下さん、事務 小谷さん 鎌田さんによるタッキー&翼「Venus」
チョット大人しめ？なDanceでした。

Third 新人 ?Dr. and 師長 DANCING (事務部長賞)

白山Dr. (ズーと着ぐるみ)、須藤Dr. (スカート)、名二 山室Dr. (スカート)によるザザンオールスターズ「アロエ」

最後に瓦木事務部長から△の乾杯で閉会となり、各人来年への英気を養い、サホロから帰宅の途につきました。



これまでの主な話題

11月

おもてなしのこころ 第2回接遇研修

11月19日(木)当院会議室において、(株)北海道医療情報サービスコンサルティング事業部接遇グループから畠谷亜弥氏を講師として招き、本年度第2回目の接遇研修会を開催し、34名の職員が受講しました。研修では前半に接遇の意味と必要性の講義のあと基本動作の実習を行ったほか、後半はグループに分かれ患者対応のグループワークを行い、真剣な中にも高度な演技力で役になりきるリアルなロールプレイで、各職員心づかいと思いやりを表現し質の高い楽しい研修となりました。今後は職能別研修の実施も検討していきます。



11月

赤十字災害救護訓練を終えて

医療社会事業課 石井 康浩

2015年11月20日～22日、2泊3日の日程で赤十字災害救護訓練に管理要員として参加してきました。

訓練では、まず、災害救護現場と医療機関とを結ぶ情報共有システム「EMIS」についてや、無線を使った情報伝達、情報の整理(クロノロジー)の方法を学びました。災害医療の現場では、被災状況や必要な支援を的確に把握し災害対策本部に伝達することが限られる医療資源の適切な投入につながるため大切なポイントなどを感じました。

次に、被災現場でのトリアージの実施と対応方法を学び、その後実際に列車の脱線事故を想定した実動訓練を行いました。私は救護テント内で搬送されてくる患者の情報整理を担当しました。次々に搬送され処置が行われる患者に対する状況の把握と、どの患者から優先的に搬送することになるのか等の情報共有について各救護テントや現場統括ロジスティックとの連携の必要性を感じました。

最終日には、長岡赤十字病院の内藤先生より11年間で8度にわたる救護活動から得られた体験を伺いました。救護活動を円滑におこなうためにメディアへの対応の重要性や救護活動から撤退するタイミングの難しさなど、状況の中で奮闘されていたからこそその気づきを教えてくださいました。

災害救護という分野に触れる機会が今まで無く初めての経験でしたが、3日間の研修を通して、個々ではなく組織で動くことの大切さと、もしこの地域で災害が起こった時に組織として混乱なく活動できるよう日頃から準備をしておくことの大切さを学びました。



赤十字災害救護訓練参加者

班 長 藤城 貴教・須藤 隆次

看護師長 寺原 勝好

看護師 村井佐智代・山田 麻水

管理要員 大川 浩二・石井 康浩



12月

町民公開講座を開催しました

12月18日(金)清水町中央公民館において町民公開講座を開催しました。はじめに2階病棟山田麻水看護師から10月5日~30日にわたり派遣された、福島県いわき市に避難している浪江町民に対する健康調査支援事業の活動報告が行われました。報告の中で被災地では現在も家族の分裂や放射線による健康被害、被災による賠償金制度の問題などが解決しておらず、苦しみは続いているとの報告がありました。また、この報告が被災地の現状や被災者の思いを皆さんに知って頂く機会になってほしいと思いを述べられました。

次に、名古屋第二赤十字病院国際医療救援部から関塚美穂看護師長をお招きし、日本赤十字社の国際救援活動～誰もが大切な一人～と題して特別講演を頂きました。講演では、国際救援とは場所ではなく、赤十字の活動として命を守るために全力を尽くす行動であること、また、赤十字の活動は外部からの一方的な支援ではなく、現地の人たちと協力しながら救援することであり、一人一人が集まって初めて大きな仕事ができると語されました。

会場に集まった約80名の町民の方々は、ふたりのお話しに熱心に耳を傾け、講演終了後は多くの方々から大変感動したという声がきかれ、大盛況のうちに終了しました。



1月

厳冬期災害演習2016に参加しました

平成28年1月16日(土)~17日(日)の2日間にかけて冬期間に災害が生じた場合の対応策を実践的に明らかとし、冬期災害対応能力の向上に資することを目的として北見市で開催された「厳冬期災害演習2016」に参加しました。

健康調査を行い屋外での避難所設営（この時点で開始後、2時間が経過しましたが手は悴み鼻水はタラタラ・・・）。やっとの思いで屋内体育館に移動し凍りついた手を揉み解しながら、今夜の宿泊先である「北見看大プリンス避難所」を設営しました。

夜間は本訓練のメインイベントである「車両演習」に当院職員が参加。車両演習は21:00から23:50までの約2時間に渡り、エンジンを停止した状態で寝袋とアルミシートのみで過ごすといった過酷な演習です。車内の室温はあっという間にマイナスとなり30分毎に状況を確認していましたが、当初は「全然、問題なく大丈夫です！」「余裕です！」と強気な言葉を発していたものの、最終23:30に声掛けしたときは「いったい何時まで実施するんですか？」「あと何分ですか？」とギブアップ寸前の弱気な発言になっていました。その他、炊き出し演習や安否確認演習、災害伝言ダイヤル演習も実施しました。

開催日の北見市は、正に極寒！寒さの中で救護活動を行う厳しさを痛感しましたが、非常に実りある演習となりました。



各 課 紹 介

■ 3階病棟

3階病棟は病床数42床の障害者施設等一般病棟で、重度身体障害者や特定疾患を主とした寝たきり状態の患者様が療養しています。そのため入浴介助、その他の保清、排泄介助、食事介助などの日常生活援助が看護の中心として実施され、患者様に気持ち良く過ごして頂けるように、スタッフ一同取り組んでいます。また、意思表示が出来ない方が多くいるため、観察をしっかりと行い、どんな患者様の変化も見落とさないよう心がけています。

スタッフは看護師20名、看護助手3名で2交代制勤務を行っています。年齢層も20歳代～50歳代までと幅広くアットホームな雰囲気です。

患者様ひとりひとりに、安心・安楽な療養環境を提供できるようスタッフ一丸となって頑張っています。



通所リハビリテーション オープン！

平成28年1月より、介護保険適用の短時間型通所リハビリテーションを始めました。

ここでは、医学的な管理のもと、利用者の在宅での生活や心身機能の維持、活動性の向上に必要なトレーニングや日常生活動作指導などのリハビリテーションサービスを個別的な評価と治療計画に基づいて実践し、患者様が1日でも長く元気に居宅生活を維持できるようにリハビリテーションを通じてお手伝い致します。

対象は、要介護認定を受けている患者様であって、主に脳血管疾患や運動器疾患をお持ちの方となります。

リハビリテーションの内容として、メディカルチェック（血圧、脈拍、体力測定等）、個別リハビリ（身体機能、運動療法、物理療法、日常生活動作訓練等）、個人練習の指導と実施訓練、運動不足解消、下肢筋力増強、健康維持・増進となります。

詳しくは、リハビリテーション技術課担当者までご相談ください。



編 集 後 記

「今年は雪が少なくて良いね」なんて話をしていた矢先、やはり季節がら大雪に出くわしました。ここ十勝はまだ少ないようですが？首都圏などでは10cmも積もると交通が麻痺するようですが、北海道は50cm位ではそんなことはありませんよね！日常生活では不必要な雪も、札幌雪まつり等ではなくてはならない存在であり、今後も四季を楽しみながら生活しようなんて考える今日この頃です。

ともあれ、春が待ち遠しいですね！(S.I)

人 事 消 息

《兼任》 よろしくお願いします

【1月1日付】医療安全推進室長 須藤 隆次
(第一内科副部長)

《退職》 お疲れ様でした

【12月31日付】栄養課・管理栄養士 久保 千里
【12月31日付】2階病棟・看護助手 作田 敏江

《結婚》 おめでとうございます

【12月25日】3階病棟・看護師 古山真芳(旧姓／吉田)

《医師派遣》

■日本赤十字社医師派遣受入

【名古屋第二赤十字病院】

1月8日～1月31日 【血液・腫瘍内科】 矢野 寿 医師
2月1日～2月29日 【腎臓内科】 亀谷 直輝 医師
3月1日～3月31日 【腎臓内科】 伊藤 衣里 医師

■話題・写真などを募集します！

院内報は1月・4月・7月・10月に発行する予定です。様々な話題や情報を発信していきたいと考えておりますので、職員の皆様から掲載したい話題や表紙となる写真がありましたら広報委員までお知らせください。

発 行 元

発 行:清水赤十字病院

〒089-0195

北海道上川郡清水町南2条2丁目

TEL0156-62-2513 FAX0156-62-4460

URL <http://www.shimizu.jrc.or.jp/>

E-mail:rcssoumu@shimizu.jrc.or.jp

編 集:清水赤十字病院広報委員会

責任者:事務部長 瓦木研一

印 刷:勇昇印刷(有)